

令和5年度

第13回

子ども議会

みんなが住み続けたい 千葉市にするために

今年新しくなった議場で、「みんなが住み続けたい千葉市にするために」をテーマに、小学校5、6年生の子ども議会議員が6グループに分かれ提案や質問を行いました。

全4回の学習会を通して話し合いを重ね、グループの提案内容を精選し、当日に向けて準備しました。第2回学習会では、市の担当者に提案に関わる事業について直接質問したり、提案に関わるアドバイスをもらったりしました。

子ども議会当日は、各グループがタブレットPC（ギガタブ）等を活用して提案資料を作成し、大型モニターに資料を映して発表を行いました。自分たちの提案や質問がわかりやすく伝えられるように様々な資料を提示し、工夫して発表することができました。

1 開催の目的

- 本市の将来を担う子どもたちが、本市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせる街づくり」に向けた具体的な提案や質問を行う中で、千葉市民としての意識を高める。
- 子どもの視点から生まれる疑問や質問を、市長・市政に届ける。

2 開催日時 令和5年7月25日（火）9：00～12：00

3 開催場所 千葉市議会本会議場

4 出席者

- (1) 子ども議会議員41人（公募による市内の小学5、6年生）
ファシリテーター7人（市内の中学生）
- (2) 市政担当者
神谷市長、大木副市長、青柳副市長、鶴岡教育長、宍倉こども未来局長
- (3) 市議会議員
石川議長、麻生副議長、渡辺教育未来委員長、岳田教育未来副委員長

5 内 容

(1) 学習会 ～子ども議会開催に向けて～

第1回のオンライン学習会では、市長より本市の現状や取組、課題についての話をいただきました。

第2回では、正庁にて、提案に関わる市の担当者へ直接話を聞き、提案内容を具体的に検討しました。

第3回では、グループごとに集まり、発表原稿やスライドを作成し、提案に向けての準備をしました。



＜神谷市長講話「千葉市の現在と未来について」＞



＜市の担当者との提案内容に関する学習＞



＜グループごとに提案発表の準備＞

(2) 子ども議会当日

グループごとに工夫した発表を行い、住み続けたい千葉市にするための提案をしました。



＜中学生のファシリテーターによる進行＞



＜大型スクリーンに資料を映して提案＞



＜グループで提案する子ども議会議員＞



＜市長の答弁を聞く子ども議会議員＞

(3) 提案・質問の内容

①「環境・自然グループ」

- ◇千葉公園バージョンアッププロジェクトとして、「クリーンエネルギーイベント」「ドッグランの設置」「大賀ハスをアピールする商品の販売」について提案します。
- ◇ごみゼロクリーンデーの知名度を上げるプロジェクトとして、「エコバッグやTシャツのデザインを募集、配布」「知名度・参加者アップにつなげること」について提案します。



- 千葉市では、ガソリンを使用しない燃料電池自動車を公用車として利用していきたいと思っています。また、市内で行われているイベントなどにおいても、動く広告として活用していきたいと思っています。千葉公園でEVステーションの設置についても、公園の利用状況などを踏まえて、設置の可能性について検討していきたいと思っています。多くの犬が集まるドッグランなどの場所については、衛生上の問題や、ほかの公園利用者の安全性の確保などの課題もあるのでしっかり検討する必要があると思っています。大賀ハスをアピールするグッズは、「ちはなちゃん」のピンバッジ、キーホルダー、小さなぬいぐるみなど、千葉公園内にあるカフェハーモニーや房の駅ペリエ千葉エキナカ店などで販売をしております。
- 「知名度アップ」や「参加者アップ」はイベントの実施効果を高めるための大切な視点であり、エコバッグやTシャツのデザインを募集して配布したり、不用品の物々交換をしたりすることは、「ごみゼロクリーンデー」を含めた環境への意識向上に関するイベントで効果が見込める提案なので、参考とさせていただきます。千葉市では、毎年10月の3R推進月間に「へらそうくんフェスタ」というイベントを実施しており、ごみ減量クイズやごみ分別ゲームのような体験型のゲームを通してごみの減量やリサイクルを学ぶことができます。

②「安全・安心グループ」



- ◇A4判1枚の紙で作るミニ本タイプの「My防災カード」の作成について提案します。
- ◇防災キャンプを開催し、防災カードの必要性を訴えたり、体験コーナーを設置して、防災対策の意識を高めることについて提案します。

- 各家庭で、緊急時の安否確認手段や避難場所・避難所などを災害のない時から決めておくことは、とても重要な取組です。平成26年度に配布した防災マップに、緊急連絡先などを記載していただく防災カードを掲載しています。現在は、緊急連絡先に加えて、台風が接近するなど災害が予測される場合に、事前にどのような行動をとるべきなのかをあらかじめ記載していただくマイタイムラインの普及を進めています。提案のあった「My防災カード」は、親しみやすく、家庭で防災の取組を始めたり、これまでの取組を見直したりするきっかけになり、良い提案であると考えます。今後は、ご提案を含め、市民の皆さまが取り組む好事例を紹介し、防災意識が高まるような取組を進めていきたいと思っています。
- 子どもたちが防災について考えることや、避難所生活を疑似体験する防災キャンプの取組は、防災意識の向上に大変有効であると考えています。先進的な取組を行っている避難所運営委員会で、子どもたちも参加して体育館での宿泊体験を含めた防災訓練を行ったことがあります。子どもたちが参加する宿泊訓練としての防災キャンプの実施は、学校関係者や避難所運営委員など、地域の多くの方の協力と配慮が必要になりますが、皆様からいいご提案をいただいたので、多くのところで実施できるように努めていきたいと考えています。

③「健康・福祉グループ」

- ◇生きづらさを抱え困っている方を支援するために、『ちばレポ』の周知と、必要な費用を募金で呼びかけ困っている方を支援する仕組みをつくることについて提案します。
- ◇生きづらさを抱えている方々への支え合いの力を高めるために、障がい者や高齢者と健常者が交流できるイベントを実施することについて提案します。



- ちばレポについては、ちば市政だよりで毎年記事を掲載しています。また、市のホームページや、千葉県への転入者にはチラシを配布し周知に努めています。商業施設へチラシを置いたり、高校や大学などへ周知したりするなど、引き続き効果的な周知に努めていきます。千葉県では、社会福祉の増進を図る経費を積み立てるため、社会福祉基金を設置しています。市内の社会福祉施設等から要望のあった家電製品や遊具等の物品を購入して寄付したり、地域福祉の増進に寄与する事業に活用したりしています。必要な経費については、様々な方法で調達しているところですが、困っている方への支援の仕組みについてはご提案いただいた取組みを参考にしたいと思います。
- 東京2020パラリンピックのレガシーの一つとして、障害のある・なしや年齢・性別にかかわらず共に交流できる「共生社会の実現」を目指しています。みんなで楽しむことができるスポーツ「ポッチャ」の推進や、温かい時間を共有できる「ふれあいコンサート」などを実施しています。これからの千葉市を支えていただく皆さんにも、こういった活動をきっかけに支え合いの意識や力を高めていただきたいと思います。ご提案いただいたみんなが参加できるイベントは、皆さんが自分たちで運営する意識が高まり、様々な気づきを得ることができ、皆さんの成長にも繋がっていくと思います。

④「子ども・教育グループ」



- ◇放課後の子どもたちの居場所を増やして、子どもがいきいきと楽しく過ごせるようにするために、空き家を活用するなどして「どこでもこどもカフェ」の数を増やすことと、公園をいろいろな遊びができる楽しい場所にするについて提案します。

- 「どこでもこどもカフェ」は、市民の皆様のご協力により、町内会館や事務所、学校の体育館などを活用し、市内20か所で開設されています。その中には、空き家を活用して開設した事例もあるので、今後も様々な場所で「どこでもこどもカフェ」を開催していただけるように取り組んでいきたいです。また、「どこでもこどもカフェ」で子どもを見守る大人の方を増やすために、毎年「子どもの居場所サポーター養成講座」と「子どものSOS支援員養成講座」という市民の方向けの勉強会を実施しています。おもちゃのリサイクルは、物を大切に作る観点からも良いことですので、まずは「どこでもこどもカフェ」を開催している方に皆様のアイデアをお伝えし、活動の参考にしていただくようにします。
- 千葉県では、子どもたちがいきいきと成長できる遊びの場として、プレーパークを設置しています。プレーパークとは、子どもの遊びを見守り寄り添う大人をプレーリーダーとして配置し、子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶことを目指して禁止事項をできるだけ少なくした遊び場で、市民団体の皆様などが主体となって運営されています。千葉県では以前に比べて公園の数は増えていますが、一方で、遊具などの施設の老朽化が進んでいることから、老朽化対策や施設の改修を優先して行い、今ある公園を上手く活かすことを進めています。

⑤「都市・交通グループ」

- ◇「いのちを守れ！！ヘルメット大作戦」として、ヘルメットの着用について啓発することや、交通安全教室や様々なヘルメット展示を行うイベントについて提案します。
- ◇「モノパス」を使った千葉都市モノレールの利用促進として、モノパス加盟店を募り、店舗独自や市の特典を受けられる仕組みを作ることに提案します。



- 千葉市では自転車の利用を推進しており、環境に優しく健康にもよい自転車に、自発的に安全に乗ってもらえる千葉市らしい生活スタイル「ちばチャリスタイル」を掲げて自転車利用を呼び掛け、ヘルメットの着用についてもお願いしています。千葉市ゆかりの人がヘルメットを着用し周知することや、イベント会場でヘルメットに絵を描くコーナーを設けるなど、楽しみながら参加できるイベントを実施することは、ヘルメットの着用意識を高めることに有効であることから、実施について検討していきたいと考えます。ヘルメットに企業の広告を入れ収入を得ることで、少し安い価格で販売する提案を含めて、子どもから大人まで広く普及させるためのアイデアをいただきましたので、話し合いをしていきたいと思えます。
- 千葉都市モノレール株式会社では、これまで期間限定のスタンプラリーをさまざまな企業や他の鉄道事業者とコラボして実施したり、沿線施設の商品開発や千葉駅に駅ピアノを置く取組を進めるなど、新たな利用者に乗っていただく取組を進めています。今回ご提案いただいた「モノパス」については、常時開催イベントとしての提案であることから、無人駅での対応や、提携施設の拡大など検討すべき課題がありますが、千葉都市モノレール株式会社と情報を共有し、利用促進を進める方策として参考にさせていただきたいと考えています。

⑥「地域経済グループ」



- ◇千葉市の食を広める取組として、千葉市食のブランド「千」のイベントを千葉公園などの広い場所で開催することやイベントの宣伝について提案します。
- ◇千葉市食のブランド「千」についての出張授業を実施して、千葉市食のブランド「千」や、千葉市の食の課題等を学習することについて提案します。

- 千葉市には、イチゴやトウモロコシといった農産物や、歴史的に関係の深いサツマイモを使用したお菓子などがあり、これらを食のブランド「千」として認定しています。何か1つに絞るのではなく、全体として千葉市の農産物のよさをわかってほしいと思っています。生産者の方の思いが詰まった食のブランド「千」をこれまで以上にPRするため、市内の売り場を増やしてまず市民のみなさんに手に取ってもらえるような接点を作りたいと思っています。電子掲示板などさまざまな媒体を使った広報についても、検討を進めていきたいと思っています。消費者の方の声も頂きながら食のブランド「千」のさらなる発展に努めていきます。
- 現在、学校給食では、平成18年から市内の生産者・JA千葉みらい・市場・学校・行政が連携し、地産地消に取り組んでいます。主な市内産農産物は、にんじん、米、小松菜などです。学校給食で使用するだけでなく、千葉市の農業や農産物について理解を深めるために、生産者による出張授業も行っています。食のブランド「千」についての取組は、まだまだ工夫が必要であるため、皆さんの力もお借りし、学校でも「千」について宣伝してもらい、みんなで「千」について広めて、もっと千葉市の農業を盛んにできたらと思います。

6 神谷市長の講評

この千葉市議会議場では、市議会議員の皆さんと私たちで、今の千葉市そして将来の千葉市に必要なことを議論し検討しています。議場が新しくなってから初めての子ども議会となりましたが、今回の子ども議会でも、PCやタブレットなどを活用し、議場内のモニターによく検討された資料が映し出されました。千葉市の将来を担う皆さんが、千葉市の現状と課題について話し合いを重ね、具体的な提案をしてくれたことを大変頼もしく思っています。自分たちの提案で、自分たちの住む街が変わっていくことを知ってもらいたいと思いますし、これからも様々な意見を寄せてほしいと思います。皆さんの視点から生まれる疑問や質問を、生の声として市政に届けてくれたことはとてもありがたいことです。どのグループの提案も、子ども議会議員ならではの斬新な発想があり、いろいろな疑問を真剣に突き詰めて考えてくれました。学校を超えたグループ編成であり、初めて会った皆さんがグループで検討を重ね、毎日通う学校とは違う環境で質問を練り上げていき一つの結論を作っていくことは、とても素晴らしい経験だったと思います。全体として、今の制度についてよく調べておりアンケートなどで数字を示してくれているので、実現に向けて何をしなければいけないかを検討する際に、大変参考になり大切にしていきたいと思います。

中学生の皆さんには、ファシリテーターとして子ども議会のサポートを務めていただき、子ども議会議員の意見をまとめてくれたり、より良い提案になるようアドバイスしてくれたりしたことは、子ども議会議員にとってもファシリテーターの皆さんにとっても、重要な経験になったと思います。小学生から中学生へと、市政に参画する意識がしっかりと引き継がれていることを感謝しています。

現在、教育委員会では、第3次千葉市学校教育推進計画をスタートしております。目指すべき子どもの姿を「夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども」として、様々な体験活動やギガタブを活用した学習方法を進めています。個々の理解度に応じた学習や、グループでの活動を組み合わせながら、将来の千葉市を担う子どもたちの教育に取り組んでいます。最後に、子ども議会議員の皆さんには、千葉市の市政に引き続き関心を持ち続けていただきたいと思います。

7 子ども議会議員の声から

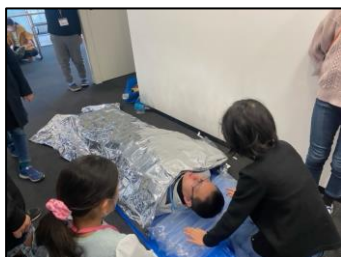
※一部を抜粋しています

自分から積極的に意見を発表して、自分が住んでいる町のことについて真剣に考えることができました。また、ここでしか会えない、いろいろな小学校の人に会い、交流できて良かったです。

めったに行くことができない議場で議会に参加できたことは、貴重な体験でした。神谷市長の目の前で発表できたことや、これからの千葉市について自分たちで考え発表できて良かったです。

8 提案の実現に向けて

こども・若者の力 ワークショップ 「めざせ！防災マスター」



<防災用品の体験>



<話し合いの様子>

「安全・安心グループ」の防災対策に関する提案を受け、「めざせ！防災マスター！！」をテーマに「こども・若者の力ワークショップ」を開催、「こども防災カードづくり」「防災イベントの実施」を目指し、現在も市内の小中学生24名が活動しています。自分たちでカードづくりやイベントの実施を行うほか、活動を通して考えたことを市に提言する予定です。